

澤村　　まだまだ開発余地ある

社長　清水民生　氏

当社の主要仕入れ先は北陸産地です。この1年間の発注量は減っておらず、むしろ増える傾向です。寝具向けなどが伸びています。産地と一体となった商品開発も進めており、トリコットのシャツ地などを開発しました。産地にはノウハウが蓄積されており、開発スピードも速い。北陸産地ならではの財産かもしれません。

逆に言えば、この部分をもっと有効に活用する事も考えなくてはなりません。これまでの歴史の中で埋もれてきたような素材を掘り起こすという意味です。これら素材と染色加工のハイブリッドによる開発余地はまだまだあるとみています。他国の追随を許さないためにも、例えば機能と感性の融合など、イノベーションの考え方で進めるべきでしょう。日本人は元々、何かと何かを組み合わせることを得意としてきたわけですから。

とくにトリコットは開発途上の素材であり可能性を秘めています。ハイブリッド型のチームをいくつも結成し、それをリーダーが引っ張る。この部分で北陸産地への期待は大きいですね。